



南波多郷学館児童 シバハギ植栽

7月17日、南波多郷学館6年生の児童22人が、市天然記念物に指定されている大野岳山頂付近のタイワンツバメシジミ繁殖地で、タイワンツバメシジミの食草である『シバハギ』を移植しました。



↑南波多郷学館と保存会の保全活動の取り組みが始まってから、今年で7年目になります

これは、絶滅危惧種に指定されているチョウ『タイワンツバメシジミ』の保存活動の一環として行われたもので、児童たちは、4月に種まきをして大切に育ててきたシバハギの苗150株を『大野岳タイワンツバメシジミ保存会（松本輝彦会長）』の指導を受けながら、一つ一つ丁寧に植えていました。

みんなであらう
考えよう
人権・同和問題
No.272

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

『識字（しきじ）』を考える

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係（☎23・3186）

『国民的課題』である同和問題の解決には、多くの人が関わり、差別を無くしていこうとする取り組みの中から、いくつもの人権に寄与する活動を生み出してきました。その一つに『識字』があります。

識字とは『文字の読み書きができること』で『識字学級』は、1963年に、社会的な差別によって教育を奪われた人たちが、自主的に学習を始めたことがきっかけとなって開設されました。

国際的には1990年に『国際識字年』が制定されました。ユネスコによれば、この当時、世界には9億6250万人もの『非識字者』がいて、このことが、女性差別や経済的文化的差別に深く関わっていると警告しました。この問題を周知することが国際識字年の目的でした。

2015年になると、世界の識字率は91%まで上がってき

ました。しかし、現代においても15歳未満で学校に行けない子どもは約1億人、さらに文字の読み書きが不自由な大人は約7億人にのぼります（Unescoプラットフォームより）。

わが国を見ると、2020年の文部科学省調査によれば、全国に自主夜間中学校が47校、識字学級・講座が543箇所あるとされており、このことは識字学習の必要性がそれだけあるということを示しています。本県であれば、本年4月に公立夜間中学校が開校しました。

国際連合は、毎年9月8日を『国際識字の日』と定めています。現在、わが国には、外国から来た人がたくさん暮らしています。「文字がわからないこと、さまざまな公共サービスを受けられない」という声があります。

『識字学習』の必要性はさらに高まっているのです。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係（☎22・1262）

『楠久津くんち』で使用する

神輿の修理をしています

山代町楠久津では、毎年10月に『楠久津くんち』を開催しています。

楠久津くんちは、五穀豊稔と、昔から漁師町であることから大漁を祈願して、鯛を模した神輿や樽神輿を担ぎ、道行踊りを行いながら、住吉神社から区内を一周します。

神輿は、古くからくんちで使用されていて、細部まで装飾が施されています。しかし、長年の使用による

劣化や損傷が見受けられるため、専門業者による修理が、現在行われているところで、修理完了後、今年のくんちで初披露されます。

古くから継承されてきた姿を残しつつ、新しく生まれ変わる楠久津の神輿。ぜひ楠久津くんちに出かけてみてください。

開催日については、生涯学習課文化財係に問い合わせてください。



↑楠久津区の神輿



↑神輿頭頂部の鳳凰